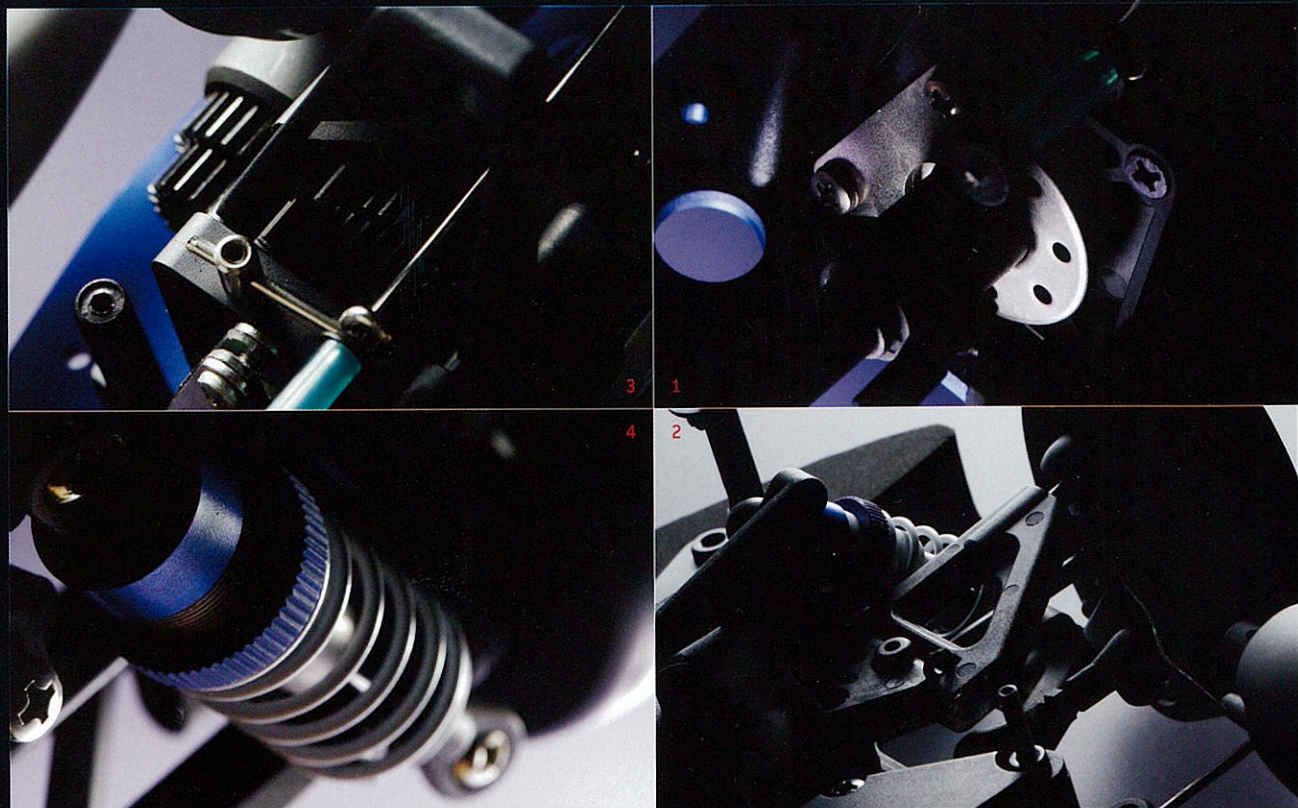




1.インボード式のディスクブレーキはセンターシャフトを直接制動する仕組みとなっている。2.サスペンションシステムは操縦者の操作感覚に応えるべく、ジオメトリーをシビアに追求したものだ。3.ギヤは2段変速。これを遠心クラッチで制御する。4.美しい造形を見せるダンパー&スプリング。ダンパーはオイル式で幅広いセッティングが可能となっている。

美しくペイントされたボディはボディで、跳めて飽きない魅力を持たえているが、1/10スケールのRCカー「FW-06」がサーキットを縦横無尽に走る姿を見た後では、ボディを外して中を覗きたい衝動を抑え込むことができない。名シーンを演じた憧れのレーシングカーと対峙したときと共通する、心の高ぶりを意識する。「中身はどうなっているんだろう」と。

そして案の定、シャシーを露わにしたFW-06は、精緻なメカニズムの集合体だった。真っ先に目に飛び込んてくるのは、空冷2サイクルの単気筒エンジン。ヒートシンクを備えたヘッド回りやむき出しのエアフィルターが、パワーの発信源らしい存在感を放っている。キャブレターの調整はドライバー一本で可能。燃調をどこに合わせたいレースに臨むか、といったチューニングの楽しみも提供する、まさにこのクルマの心臓部だ。

マフラーも見逃せない。エンジン内部の開発が長期に渡って凍結されたF1では、ライバルとのパワー差を作り出す手段が吸気と排気に限られている。排気の開発だけに限っても数十馬力の差を生むというが、それはFW-06も同じ。チャンバーの容量と口径で出力の特性に差を生む仕組みで、チューニングパーツも用意されている。単なる排気の通り道ではなく、立派な機能部品であること

を示している。

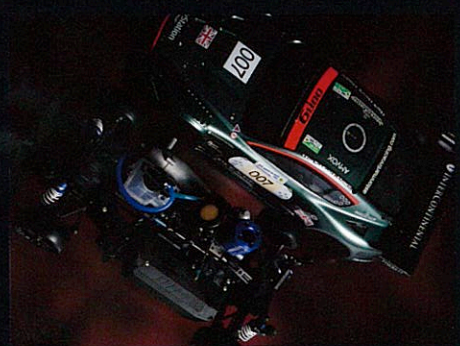
排気量約2.5ccのエンジンが生む動力は、ギヤを介してセンターシャフトに向かう。行く先を追っていくと、前後のデフを介してドライブシャフトが伸び、左右輪につながるのが分かる。つまり、4WD。ギヤボックスに相当するのが遠心クラッチ式の2段ギヤで、これが走行中にエンジンサウンドを1段引き上げる張本人。歯のかみ合いを観察すれば、起きる現象とメカの構造が一致。「ここがこうなっているから、あんなのか」と、思わずひとり合点してしまう。精緻なメカが見る者を陶醉させずにはおかない。

ディスクブレーキはインボード式。センターシャフトにその存在を確認することができるが、スロットルと連動して動く知的な仕組みに感心する。圧巻は前後ともダブルウィッシュボーン式のサスペンションだ。無段階車高調整機能を備えたオイル封入式ダンパーが硬質感漂うアルミ製なのは、ファッションではなく機能上必要だから。鮮やかに塗装されたコイルスプリングは、長さや線径を変えることでセッティングの変更ができる仕組み。ミリ単位の動きが走りに大きな影響を与えるだけに、高い精度が求められることは想像つくが、鑑賞の対象になるほどに完成度は高い。アームを動かせば、サスペンション機構が持つ精度と剛性感の高さが手に伝わってくる。精緻なメカをつぶさに眺め、触れてみれば、FW-06がレーシングスベックを備えていることが理解できる。

## 京商 FW-06 SERIES

FW-06シリーズは、2サイクルエンジンの出力を、2速ATを介しセンターシャフトドライブによって4輪に伝達するRCカーである。京商では、完成済みシャシーに複数のボディタイプ、さらに送信機、燃料ポンプなど走行に必要なパーツをコンプリートで用意する「レディセット」(45,150円・税込)を販売している。

○問い合わせ先：京商ユーザー相談室  
046-229-4115(受付時間10:00~18:00/土日祝は除く)  
<http://www.kyosho.com>



## ahead 1/10 RC Motorsports vol.3

# 精緻な構造は、戦いのために。

専用サーキットを走る姿がahead編集部を驚かせたFW-06。豪快な走りを見せる一方、繊細な操縦にも応えるマシンの“秘密”を知るべくFW-06の内部構造に深く迫ってみることにした。エンジン、サスペンションシステム、そして制動装置…操縦者の緻密な操作に応えるマシンは、やはり精緻な機構に裏付けられたものだった。

文・世良耕太 写真・長谷川 徹 構成・桜間 潤